

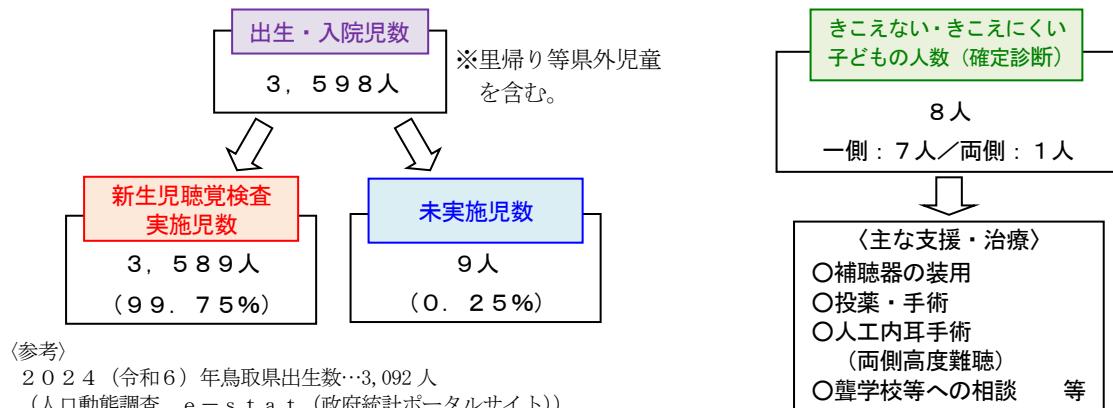
2025（令和7）年度（2024（令和6）年度出生児対象） 新生児聴覚検査実施状況

2025（令和7）年11月

鳥取県きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』

- ・新生児聴覚検査は、きこえない・きこえにくいことを早期発見し、早期に児童及び保護者に支援を行うことを目的としている。
- ・県内の分娩取扱産科医療機関14施設について、新生児聴覚検査実施状況の調査を行った。（全分娩取扱施設で実施。）
- ・2024（令和6）年度の県全体の新生児聴覚検査実施率は99.75%（前年度99.79%）で高い実施率を保持している。
- ・このことは、医療機関等の理解・協力のもと丁寧な説明により、保護者の理解が進んだことによると考えられ、新生児聴覚検査の早期発見及び早期支援体制の構築に繋がっている。
- ・県全体で確定診断を受けた、きこえない・きこえにくい子どもの人数8人（一側難聴7人／両側難聴1人）であった。

【きこえない・きこえにくい子どもの早期発見と支援、治療の全体像】



（参考）

2024（令和6）年鳥取県出生数…3,092人
(人口動態調査 e-s t a t (政府統計ポータルサイト))

1 新生児聴覚検査実施状況

- ・県全体の検査実施率は99.75%で、前年度と比べ0.04%減少した。
- ・NICU入院児の検査実施率は99.50%で、前年度と比べ0.22%増加した。
- ・NICU入院児を除いた検査実施率は99.80%で、前年度と比べ0.08%減少した。
- ・未実施の理由は、「保護者が希望しない」「出生直後の死亡」「検査費用を負担したくない」であった。

2 精密検査実施状況

- ・精密検査実施件数は15件であった。
- ・NICU入院児のきこえない・きこえにくい子どもは、一側難聴が2人（中等度1人、高度1人）、両側難聴が1人（高度）であった。
- ・NICU入院児を除いた、きこえない・きこえにくい子どもは、一側難聴が5人（中等度1人、高度4人）であった。

3 市町村及び保健所訪問指導実施状況

- ・相談件数は14件（新生児スクリーニング実施医療機関から：6件、新生児訪問での相談：4件、電話相談4件）で、保健師による支援が実施された。

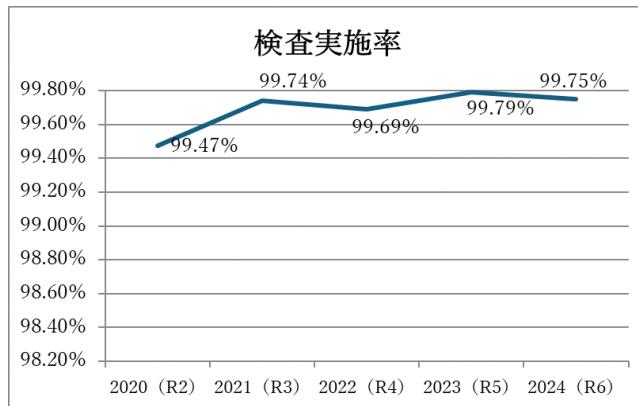
4 療育機関・教育機関での指導実施状況

- ・新生児聴覚検査を受けてリファーとなり、指導を開始したのは13人で、うち6人は県内精密検査実施機関から、うち1人は保健師から、うち6人はその他からの紹介によるものであった。
- ・指導開始が生後6か月以内は5人、6か月超は8人であった。

資料

1 新生児聴覚検査実施状況

県全体の検査実施率は、99.75%（前年度99.79%）となった。



出生年度	検査実施状況		
	出生・入院児数 (A)	検査実施児数 (B)	実施率 (B/A × 100)
2024 (R6)	3,598	3,589	99.75%
2023 (R5)	3,829	3,821	99.79%
2022 (R4)	4,520	4,506	99.69%
2021 (R3)	4,261	4,250	99.74%
2020 (R2)	4,571	4,547	99.47%

(1) NICU 入院児の状況

①実施状況

- 全体の検査実施率は、99.50%であり、前年度（99.28%）と比べ0.22%増加した。
- 未実施の理由は「検査前に死亡」であった。
- 実施率を圏域別で見ると、東部99.63%（前年度比0.04%増）、中部が100%（前年度同比）、西部は99.27%（前年度比0.63%増）となっている。

圏域	検査実施状況			検査結果		
	医療機関入院児数	検査実施児数	実施率	パス	リファー	リファー率
東部	272	271	99.63%	269	2	0.74%
中部	58	58	100.00%	57	1	1.72%
西部	273	271	99.27%	268	3	1.11%
合計	603	600	99.50%	594	6	1.00%

※検査結果：パス→正常、リファー→要再検査

(2) NICU 入院児を除いた状況

①実施状況

- 検査実施率は99.80%であり、前年度（99.88%）と比べ0.08%減少した。
- 未実施の理由は「保護者が希望しない」「出生直後の死亡」「検査費用を負担したくない」であった。
- 実施率を圏域別で見ると、東部が99.91%（前年度比0.09%減）、中部は99.80%（前年度比0.2%減）、西部は99.71%（前年度比0.03%減）となっている。

圏域	検査実施状況			入院中検査			確認検査 (1ヶ月健診時)	
	医療機関出生児数	検査実施児数	実施率	パス	リファー	リファー率	パス	リファー
東部	1,140	1,139	99.91%	1,123	16	1.40%	10	2
中部	496	495	99.80%	487	8	1.62%	6	2
西部	1,359	1,355	99.71%	1,338	17	1.25%	7	4
合計	2,995	2,989	99.80%	2,948	41	1.37%	23	8

※入院中検査リファーのうち、10人は確認検査（1ヶ月）をせず精密検査実施機関、小児科医療機関へ紹介。

2 精密検査実施状況

県内の分娩取扱産科医療機関又は小児科医療機関から県内精密検査機関を紹介された19人のうち、精密検査を受診したのは15人で、確定診断を受けたきこえない・きこえにくい子どもは8人であった。

(1) NICU 入院児の実施状況

①実施件数と結果

スクリーニング結果		精密検査結果				
県内医療機関からの紹介	県外医療機関からの紹介	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
4	-	4	2	1	1	-

※県内精密検査機関（NICU 入院児）：県立中央病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部附属病院の3機関

②きこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳と紹介人数

NICU 入院児のきこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳は、以下のとおりである。また、県内の聾学校への紹介は2件であった。

程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数	
			県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ
軽度難聴	-	-		
中等度難聴	1	-	2	-
高度難聴	1	1		
合計	2	1	2	-

(2) NICU 入院児を除いた状況

①実施件数と結果

スクリーニング結果		精密検査結果				
県内医療機関からの紹介	県外医療機関からの紹介	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
11	-	11	5	-	6	-

※県内精密検査機関：県立中央病院、鳥取赤十字病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院の5機関

②きこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳と紹介人数

NICU 入院児を除いた、きこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳は、以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は3人であった。

程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数		
			県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ	その他
軽度難聴	-	-			
中等度難聴	1	-	3	-	-
高度難聴	4	-			
合計	5	-	3	-	-

3 市町村及び保健所訪問指導実施状況

市町村及び保健所保健師が実施した訪問指導の内訳は、以下のとおりである。

新生児スクリーニング実施医療機関からの指導依頼により相談を受けた事例が6件、新生児訪問の際に保護者から相談を受けた事例が4人、電話相談を受けた事例が4人であった。

区分	相談 件数	関係機関からの指導依頼				新生児訪 問での相 談	健診・予防 接種等の 場	その他の 経路によ る相談	電話相談
		新生児ス クリーニング実 施医療機 関から	聴覚精検 実施医療 機関から	保健所か ら	その他の 機関から				
東部圏域市町村・保健所	5	-	-	-	-	1	-	-	4
中部圏域市町村	7	6	-	-	-	1	-	-	-
西部圏域市町村	2	-	-	-	-	2	-	-	-
合計	14	6	-	-	-	4	-	-	4

4 療育機関・教育機関での指導実施状況

療育機関、聾学校での指導開始人数は13人であった。

県内精密検査機関からの紹介が6人、保健師からの紹介が1人、その他からの紹介が6人だった。

区分	人数	紹介者			指導開始時期	
		精密検査 機関	保健師	その他	6か月 以内	6か月 超
療育機関	5	-	-	5	-	5
聾学校	8	6	1	1	5	3
合計	13	6	1	6	5	8

5 参考

2024（令和6）年鳥取県出生数 3,092人

（人口動態調査 e-s-t-a-t（政府統計ポータルサイト）